

# 米国 ～雇用堅調も労働需給は逼迫せず～

経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

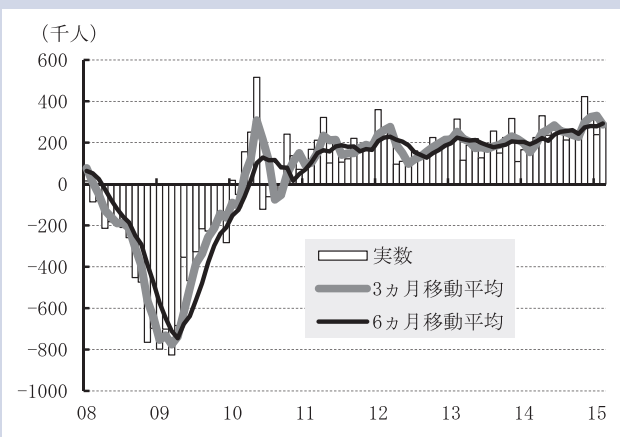


## 雇用の拡大ペースは堅調

米国の非農業部門雇用者数(季節調整済み)は、15年2月に前月差+295千人(1月同+239千人)と加速した。製造業、建設業などが鈍化した一方、狭義のサービス業、小売業、政府が加速した。民間部門は前月差+288千人と1月の同+237千人から加速し、堅調さを維持した。

雇用の基調を判断するために、3ヵ月移動平均をみると、2月の非農業部門雇用者数(12、1、2月)は前月差+288千人(1月同+330千人)、民間部門雇用者数は同+281千人(1月同+323千人)とともに小幅減速したが、堅調さを維持している。また、より一時的な変動の影響を排除できる6ヵ月移動平均では、非農業部門雇用者数(14年9月-15年2月)は2月に前月差+293千人(1月同+279千人)と、経済成長の加速に伴って雇用の増加ペースは徐々に加速している。

資料1 米国非農業部門雇用者数(前月差)



(出所)米労働省データより作成

## 失業率が示すほど労働需給は引き締まらず

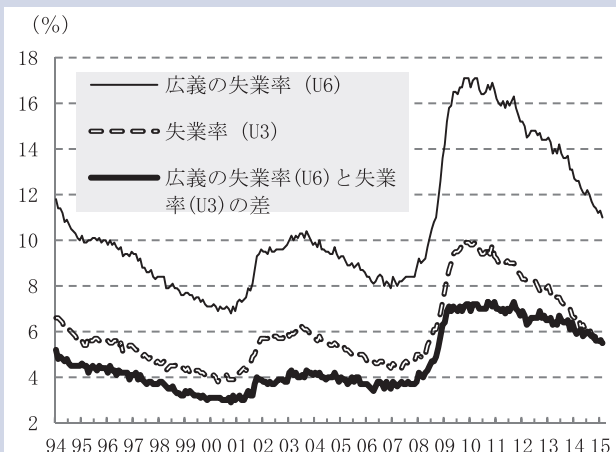
2月の失業率(U3)は、5.5%(1月5.7%)と職探しを諦めた人の増加によって低下した。失業率(U3)の低下は、職探しを諦めた人が増加した影響も大きく、5.5%という水準が示すほど雇用情勢は改善していないと考えられ

る。実際、労働需給の影響を受ける賃金の上昇ペースは依然加速していない。時間当たり賃金は、2月に前月比+0.1%(1月同+0.5%)と、最低賃金の引き上げなどの一時的な要因が剥落したことを受け鈍化した。前年比では+2.0%(1月+2.2%)と低い伸びにとどまっており、労働需給の緩みを背景に賃金の上昇ペースは引き続き抑えられていると判断される。

通常の失業者に加えて、正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や過去1年間に求職活動を行った人を失業者としてカウントした広義の失業率(U6)は、11.0%(前月11.3%)と依然高い水準である。雇用の質を示す「U6とU3の差」をみると、5.5%ptと失業率が15年2月と同水準だった01年11月の3.9%を大幅に上回っている。

また、就業率は59.3%と11年6月の58.2%を底に改善しているものの、81年5月以来の低水準にとどまっている。さらに、失業者に占める長期失業者の割合は31.1%と低下傾向にあるが、前回ピークの23.6%を依然上回っている。雇用の質は、緩やかに改善を続けているが、依然改善余地がある。これらの改善により労働需給が逼迫し、賃金上昇率が加速することで、米経済が本格的な景気拡大局面入りしたことを確認できよう。

資料2 米雇用の質



(出所)米労働省データより作成